

# グラントワ応援団通信

平成 25 年

5 月 2 4 日発行

第 34 号

## 『グラントワで働く縁に感謝』

グラントワ支配人（いわみ芸術劇場館長）

末成 弘明

今年の一月からグラントワで勤務いたしております。私の机の上にはボランティアの方が生けられた可憐な花が咲き誇り、いつも心を癒してくれます。美術館の企画展をはじめとした情報紙やパンフレット類の発送、イベント時の受け付け、場内整理、独自企画や情報発信などなどあらゆる分野でボランティアさんにご協力、ご活躍いただいています。まさにボランティアの方々あつてのグラントワ。心より感謝申し上げます。

私はグラントワとは目と鼻の先の所で生まれ育ちました。ここは以前、西日本木材の合板工場でした。戦時中は三井の軍需工場だったとか。亡き母も嫁ぐ前に働いていたと

の充実が優先ではないか」との意見もありました。私も内心「少し贅沢かな」と思いました。

二十四年度のグラントワの来訪者数は約三十五万人。益田市の人口のざっと七倍です。そのうちの半数は県外から。観光を目玉とした交流人口の拡大に一役買っています。また、今年一月には地域創造大賞を受賞しました。地元の合唱団や弦楽・邦楽の合奏団の育成や、益田糸操り人形など伝統芸能の保存育成といった市民の皆さんと一体となった取り組みが認められたわけです。

先日、アウトリーチで小学校を訪ねた時、児童たちにこう話しかけました。「ご飯やおかずは血や肉になつて健康な体を作ります。音楽や美術は心の栄養源であり、心身の成長に欠かせないビタミンなんです。」と。文化・芸術は地域の振興に欠かせません。文化力を発揮して心豊かな古里づくりに努めたいものです。

昨年 森鷗外生誕150年を記念して開館した「文京区立森鷗外記念館」に、先日訪ねてきました。

東京の地下鉄「千駄木」を降りて、団子坂を上った処の、新しいコンクリート造りの建物です。鷗外が30歳（明治25）の時からこの地に家族とともに暮らし、当時の2階から品川沖の白帆が望めたところから、「観潮楼」と名づけられました。

半生を過ごしたこの地で「高瀬舟」などの執筆し、芥川龍之介、石川啄木などの文人たちと交流があったようです。鷗外の経歴、家族のこと、文人や画家との交流のことなど、当時の面影をさがしに、訪ねるのも一つの楽しみです。

## 陽水さんのこと

情報発信ボランティア

大庭明博

○ 人生が二度あれば 〈序章〉

【父は今年二月で六十五

顔のシワはふえてゆくばかり

仕事に追われ

このごろやつと ゆとりが出来た】

72年発表のデビュー曲冒頭です。24才

だった陽水さん自身が、今年八月にこの詞

のなかのお父さんの年齢になられます。何

か感慨深いものがありますが、ご自身も想

いを馳せておられるのではないでしょう

か。

○ 叙情派フォーク

詞も曲も自作のシンガーソングライター

ー・陽水さん。70年代の頃は叙情派フ

ォークと言われたりしました。「傘がな

い」では

【テレビでは我が国の将来の問題を

誰かが深刻な顔をして喋ってる

だけでも問題は今日の雨・・・】と転

じ、

国家とか政治とかよりも、好きな女の子

のところ「行かなくちゃ」とラブ・ソ

ング。フォークありロックがあり別の要

素もあり、時代を超越した「余裕派」と

当時の私には思われたものです。

○ 三枚目のアルバム

そんな陽水さんが今を去ること40

年前に発表した出世作『氷の世界』。「心

もよう」や小椋佳さん、忌野清志郎さ

んとの共作など、クオリティの揃った

画期的な作品で、まだ再生機器の十分

な普及のないLPレコードの時代に

日本で初めてのミリオン・セラーを記

録しました。陽水さんの現在の成熟し

た艶っぽい声とは違った、澄み切った

高音ボーカルがとて魅力的です。昔

も今も変わらず繊細かつ力強い美声で

す。

○ 陽水節 MC

「生きてるといろいろと大変なご苦

労とか悩みとかおありでしょうが、

今日は、短い時間ではございますが

そんなことを忘れていただいて・・・。

終演の時には「皆さんのご長寿をお

祈りしています。」が定番でしたが、

昨年五月の松江の県民会館では、「次

の機会にも、皆さん自力で来れます

ように・・・」。独特の間やイントネ

ーションのMCは不思議な魅力に満

ちています。

○ 人生が二度あれば 〈終章〉

陽水さんは傑出した才能に恵まれ

た邦楽ポピュラー界・トップ・アー

ティストの一人です。やはり永らく

の活躍を続けられている小田和正さ

ん、矢沢永吉さん同様60歳代半ばと

なられましたが、楽曲の発表やライ

ブなどを40数年間にも亘り私たち

は期待し、楽しませてもらいました。

あの時、あの頃、あの時代にこんな

いい曲を作ってた。今では代表

作となった「少年時代」のようにい

い曲が沢山あって。そしてまだまだ

いつまでも元気に、素敵な歌声を聴

かせて欲しいと願っています。

【父と母がこたつでお茶を飲み

若い頃の事を話し合う

想い出してる 夢見るように】

夢見るように 夢見るように】



石見神楽のオロチを新聞紙でつくってみよう！



体験型ワークショップ

子供の日のイベントグループ活動

あ と が き

グラントワの会員の方に向けたご

招待企画『川島成道(ヴァイオリン)

& 寺嶋陸也(ピアノ) プレミアムリ

サイタル』が七月十五日・海の日に

開催されます。川島成道さんは2年

前のグラントワ公演では哀しくも美

しいモーツァルトのヴァイオリン・

ソナタなどを演奏されており記憶に

新しいところです。又、石西県民文

化会館には10年前に来演されてお

り、日本フィルハーモニー交響楽団

をバックにチャイコフスキーのヴァ

イオリン協奏曲を独奏されました。

寺嶋陸也さん同様、益田とは縁の深

いヴァイオリニストでいらつしやい

ます。夏の日のグラントワ大ホール

で室内楽に聴き入ることもきつとい

い一日になることでしょう。午後三

時開演です。

ホール友の会・共通カード会員・

ご本人一名様無料です。整理券を総

合案内カウンターにてお求めくださ

い(全席指定です)。又、小・中・高

生無料です。

(陽窃)